

第2回 デフリンピック運営委員会
(議事概要)

1 開催日時

2023年8月7日(水) 15時から16時45分まで

2 開催場所

戸山サンライズ2階会議室

3 構成員等

○委員(構成員)

委員長 久松 三二(一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事)
石原 保志(国立大学法人 筑波技術大学 学長)
延與 桂(公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 会長)
太田 陽介(一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事)
畑中 淳子(弁護士)
早瀬 久美(デフリンピック選手)
薬師寺 道代(医師)
横山 英樹(東京都生活文化スポーツ局長)

○事務局

倉野直紀(一般財団法人全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会事務局長)

4 要旨

【事務局 説明】

- ・4月の第1回会議では、デフリンピック運営委員会の事業計画案、大会開催基本計画の策定に向けた進め方、及び2023年度デフリンピックの都内気運醸成に向けた取組などについて皆様にご確認を頂いた。
- ・本日は、それぞれの事業の進捗状況や、大会概要等の検討状況について、順次ご報告をさせて頂く。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・それではこれより次第に基づき議事に入る。

まず、事務局から連盟7月理事会で承認された運営委員会各規程改正等について説明をする。

(倉野事務局長)

- ・大会運営におけるガバナンスの確保や透明性の担保のため、東京都と確認をしながら、運営委員会の規定整備に取り組んでいる。当連盟7月理事会では、「懲戒審査委員会設置要綱」や「利益相反管理委員会規程」や「倫理規定」、「指名業者等選定委員会」の規定改正を承認いただいた。今後も、規定整備に取り組み、国民や都民に信頼される大会運営を目指していく。
- ・新設された規定や改正した規程は、皆様のお手元にある委員用ファイルにも綴じこんだので、必要な時にご確認いただきたい。なお、大会ホームページが開設されたときは、運営委員会規程も必要に応じて公開していく。

(久松委員長)

- ・それではこれより次第に基づき議事に入る。まず、事務局から、2023年度事業「全国への気運醸成の推進事業」について説明させていただく。

○議題 (1) 2023年度事業「全国への気運醸成の推進事業」

(倉野事務局長)

- ・前回の会議では、デフリンピック・フェスティバルを全国8ブロックで行うことを確認いただいた。その進捗状況と実施方法や助成についてご説明申し上げる。
- ・現在、8ブロックの開催申請について調整中である。

- ・実施方法は、地域ろう当事者団体からの開催申請を運営委員会が審査を行い、開催を承認するものであるが、開催にあたり、きこえない人ときこえる人の協働を通じた共生社会やつながりの実現を具体化するため、実施主体は地域ろう当事者団体と地域行政や関係機関との共催、もしくは地域ろう当事者団体主催、地域行政後援を得ることを基本としている。
- ・また、地域ろう当事者団体の開催取り組みや地域行政や関係機関との連携を後押しするため、地域ろう当事者団体へ、1か所10万円×8ブロックの合計80万円の助成を行う。
- ・また、ガバナンスの確保のため、その実施状況や収支会計、経費の使途等も、運営委員会として入念にチェックをしていく。

○議題(2) 第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025 大会概要」の策定について
(久松委員長)

- ・次に、「競技会場案」、「第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025 大会概要」の策定について担当する東京都スポーツ文化事業団から説明させていただく。

(北島ゲームス・マネジメント・オフィサー(東京都スポーツ文化事業団))

- ・「競技会場等」について。招致時の会場から競技団体との協議を踏まえ、変更があった会場について諮らせてもらう。
- ・開閉会式は、「駒沢オリンピック公園総合運動場」から「東京体育館」に変更。選手のコンディション維持に配慮し、気温低下や悪天候でも参加しやすい、また、天候に左右されずに幅広いプログラムや演出法の検討が可能という理由で室内の開催に変更した。
- ・オリエンテーリングは、「伊豆大島」に加え、「日比谷公園」でも開催。
- ・射撃会場は2か所を検討していたが、選手やコーチ、役員の負担を軽減、会場運営や競技運営の効率化を検討し、「味の素ナショナルトレーニングセンター」に集約。
- ・水泳は、「東京体育館」から「東京アクアティクスセンター」に変更。
- ・バレーボールについては、バレーボールとレスリングの会場を入れ替えた。
- ・大会概要は、11月頃に公表を予定している大会の開催基本計画の策定に先立ち、大会ビジョン、大会名称、競技会場などの主要な事項について、運営にかかわる三者でとりまとめ、公表するもの。
- ・「はじめに」では、日本で初めての開催であること、デフリンピック開催から100周年となる歴史に残る大会になることを記載、「デフリンピックについて」では、大会の基本情報などを記載。「大会ビジョン」は、招致時に作成した大会コンセプトをベースに、連盟の大会に向けた考え方や東京都の「ビジョン2025」などの要素を踏まえ作成。
- ・ビジョン1「デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ」では、本来スポーツが持つ魅力とともにデフスポーツの魅力や価値を伝えることや、あらゆる人が参画する大会を目指すこと。
- ・ビジョン2「世界に、そして未来につながる大会へ」では、手話言語の理解・普及・拡大に加え、デジタル技術を活用した、新しいコミュニケーションツール等の開発・社会への普及を促進し、誰もが心を通わせることのできる街・東京の魅力を感じてもらい、世界との絆を深めていくこと。
- ・ビジョン3「“誰もが個性を活かし力を発揮できる”共生社会の実現」では、大会開催を機に、デフスポーツやろう文化への理解を促進し、障害のある人もない人も互いの違いを認め、尊重しあい、誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会づくりに貢献すること。
- ・続いて「大会名称」。過去大会を参考に、正式名称と略称を作成した。
- ・「大会エンブレム」については、9月3日の投票イベントで決定予定、そのあと、決定後のエンブレムを入れたページに差し替える予定。続いて、「準備・運営体制」は、これまでの会議等で説明してきたものを掲載しているため、説明は省略させていただく。
- ・続いて、「大会期間、参加国・選手数」について。現時点で想定される数字を記載している。
- ・「実施競技、競技会場等」は競技会場一覧を掲載、最後のページは競技会場のマップである。

【意見交換】

(久松委員長)

- ・委員の方々から意見をいただければと思う。

(薬師寺副委員長)

- ・様々なことが決まってきて、安心している。サッカー競技会場は1試合でもいいので東京でやれたらと思う。

(石原委員)

- ・学内でのデフリンピックボランティア説明会に100名近く集まった。多くの学生たちがデフリンピックに協力したいとのこと。ボランティアとして活躍することが経験につながる。

(畑中委員)

- ・気運醸成事業の10万円×8ブロックへの助成金について内規で良いので審査基準を作ったほうがよい。
- ・観客の会場間の移動のサポート(シャトルバスのようなもの)について考えているか。
- ・スポンサー関連、資金確保の状況を知りたい。

(延與委員)

- ・地元の自治体などと連携し、一人でも多くのきこえる人に、きこえない人の世界を知っていただきたい。
- ・会場について、ろう者競技団体、施設所有者、地元自治体などの了解は得られているのか？

(横山委員)

- ・東京都の職員に手話やろう文化を知ってもらおう取り組みをしている。
- ・気運醸成のイベントはきこえない人ときこえる人が一緒になって進めていくことが大事。
- ・助成金支給にあたっては、事業内容、対象経費など一定の基準を設け、採択し、会計処理もきちんと確認できる基準を持ち、審査をしていただきたい。

(早瀬委員)

- ・選手の一人として楽しみにしている。
- ・過去の大会では、競技会場間の移動時間が車で1時間は当たり前だった。東京都にできるだけコンパクトに集中させることにご努力いただき、非常に嬉しい。
- ・ボランティア募集はいつからの予定か？自転車競技の場合は、競技内容が難しいので、ボランティアもある程度自転車競技の経験者が必要。自転車競技のほかにもある特殊な競技のボランティアと一般的なガイドのボランティアをどうやって募集していくか教えてほしい。
- ・自転車競技では東京都の協力を得ながら、レインボーブリッジを走るレインボーライドなどでデフリンピックを知ってもらおう取り組みをしている。各競技の気運醸成様子を知りたい。
- ・オリンピックを「五輪」、パラリンピックを「パラ」と表すように、デフリンピックも2文字で表せる略称を決め、広めてほしい。

(太田委員)

- ・今年の全国ろうあ者体育大会(福井)は9月8日～10日、参加者は1,296名。エンブレム公表時期が近いので、そこで決定したエンブレムを発表できたらよいと思う。
- ・開閉会式が東京体育館の案になっているが、体育館の収容人員数を知りたい。

(倉野事務局長)

- ・8ブロックへの助成について審査基準等、内規を決めて透明化を図っていきたい。
- ・機運醸成事業について北信越ブロックが福井でやるなら、体育大会で何かできないかとの意見があったが、開催計画も出ていないし、体育大会までに準備が間に合わないため、別の機会になる。

(北島ゲームス・マネジメント・オフィサー(東京都スポーツ文化事業団))

- ・サッカー競技会場案について福島県での開催が決まっており、一部のみ別会場とすることは難しいことをご理解いただきたい。
- ・デフリンピックの略称については、自主的に発信してもらうことは構わないが、正式名称を使ってもらいたい。

- ・観客の会場間輸送はないが、選手の移動について、ホテルやハブ（中心地）から競技別会場への移動は、専用バスを検討している。

（久松委員長）

- ・会場案などの調整について東京都スポーツ文化事業団はよくやっけていただいている。
- ・ボランティア募集について、東京都とスポーツ文化事業団と協議している。まず、会場と実施要綱などを固めてから対応したい。
- ・略称については、デフリンピックという言葉がまだ認知されていないという実情から、当面はデフリンピックという正式名称を広めることを優先にしたい。
- ・皆さまからいただいたご意見も踏まえ、今後も事業計画に反映させながら、しっかりと進めていく。

○その他

（久松委員長）

- ・最後に、「その他」に入る。事務局、東京都スポーツ文化事業団それぞれから、担当する事業の進捗状況を説明願いたい。

（1）2023 年度事業「大会エンブレム制作」

（倉野事務局長）

- ・まず、大会エンブレム制作の状況を報告する。
- ・7月に筑波技術大学から、学生たちが制作したエンブレム候補案の提出を受けた。
- ・候補案を投票、大会エンブレム決定、発表の場となるグループワークを、9月3日に、東京都パラスポーツトレーニングセンターで、都内在住・在学の中高校生（ろう学校含む）に参加していただき、実施する。
- ・グループワークでは、候補案を制作した学生からのプレゼンを聞き、参加者同士の意見交換や、またデフアスリートとの交流を通じてデフリンピックへの理解を深め、候補案への投票を行い、決定・発表を行う。
- ・なお、候補案は既に公表されているものと同じまたは類似ではないこと及び第三者の商標権・著作権その他の知的財産権等の一切の権利を侵害するものではないことの確認、また第三者の登録出願を抑制するため、グループワーク前に商標の出願登録を行う必要がある。
- ・商標調査、出願業務に係る費用は、契約調達管理会議に付議する基準額を下回っているが、大会エンブレムという社会的注目事案であるため、契約調達管理会議に付議した。

（2）2023 年度事業「社会的・文化的プログラムの検討」

（倉野事務局長）

- ・次に、社会的・文化的プログラムの検討の進捗状況について説明する。
- ・きこえない芸術文化当事者団体や外部有識者等で構成する「検討チーム」の設置を予定している。
- ・検討チームは、全日本ろう者演劇協会事務局長の植野圭哉氏をリーダーに、委員はきこえない芸術文化当事者団体から2名、外部委員を2名と、計5名を予定し、調整している。
- ・9月から、検討チーム会議をほぼ毎月開催し、過去デフリンピック大会における社会的・文化的プログラムの調査を行い、東京2025デフリンピックの社会的・文化的プログラムを、策定したい。

（3）デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議について

（北島ゲームス・マネジメント・オフィサー（東京都スポーツ文化事業団））

- ・事業団内に、「デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議」を設置し、アスリートとして大会に参加した人の意見を聞く場を設けている。
- ・メンバーは、デフアスリートとして2名、パラリンピアン1名、オリンピック1名に参加し

てもらっている。

- ・ 7月20日に第1回会議を開催し「大会概要」についてご議論いただいた。
- ・ 今後、9月、10月にも開催し、大会の基本計画作成に向けてご意見をうかがっていく予定。

(4) 令和5年度デフリンピックの都内気運醸成に向けた取組について

(清水部長 (東京都))

- ・ 東京都として、デフリンピック大会に向けて、都内の気運醸成に取り組んでいく。
- ・ 大会開催時の到達点として、①スポーツが本来持つ、喜びや感動、人とのつながりなどを誰もが享受できるスポーツムーブメントを創出②デジタル技術などを活用し、言語や障害など、多様なバックグラウンドを持つ人々が共に生きる社会づくりに貢献することを目指す。
- ・ そのために、気運醸成については、今年度は「大会を知ってもらおう」、来年度は「大会のファンを増やす」、大会開催年度の再来年度は「大会に参画する」ための取組を進めていく。
- ・ また、ユニバーサルコミュニケーションについては、今年度は「先進技術の開発促進」、来年度は「試験活用」、大会開催年度は「本大会での活用・社会実装」の取組を進めていく。
- ・ 気運醸成については、今年度、①特設Webサイトを開設し、大会概要や国内外のデフアスリート紹介、分かりやすく手話を学べるコンテンツ等、幅広い情報を発信する。②デフリンピック応援アンバサダーとして、デフスポーツに理解のある著名人などを起用し、各種イベントで活躍していく。③デフリンピック2年前の取組として、デフリンピックの認知度向上に加え、共生社会への理解を促進する取組を実施する。④大会の魅力発信のため、デフリンピックのPR動画や子供たち向けの手話ダンス動画を制作し、様々な媒体を活用して国内外へ広く発信するなどの取組を進めていく。
- ・ また、ユニバーサルコミュニケーションについては、展示会や各種イベント等の場を通じた、デジタル技術のPRや実証、スタートアップ企業によるピッチコンテストなどにより、新たな技術開発の促進を図っていく。

【意見交換】

(久松委員長)

- ・ 委員の皆さんのご意見をお願いしたい。

(薬師寺副委員長)

- ・ デフリンピックに関わった方から、どのように協力したらよいかと問い合わせを受けることがある。協力したい人をまきこみながら情報発信してうまく繋ぐことができればよい。
- ・ 例えば、ろう者体育大会の場で競技の解説を手話言語で行うなども検討を。そうすれば、ろう者に競技の面白さが伝わるのではないかと。

(延興委員)

- ・ 社会文化プログラムを通してきこえる人たちにきこえない人の文化を知って頂く良い機会。幸い、東京都のスポーツと文化は同じ局長の下にあるので、この機会に障害者の文化の振興を進めると良い。

(横山委員)

- ・ 東京都の文化事業でも、ユニバーサルコミュニケーション、インクルーシブを重視している。最終的には、デフリンピックの気運醸成や社会的・文化的プログラムと連携しながら大会を盛り上げていきたい。
- ・ 東京都でも、積極的にエンブレムを取り入れた発信をしていきたい。ルール作りを検討して、制作者の権利を守りながら活用したい。

(石原委員)

- ・ デフリンピックがきっかけとなり、社会が変わっていくとよい。障害のある人、マイノリティの人たちが活躍できる場が大事であり、意欲を持てるようにするのが教育の役割であると考えている。

(畑中委員)

- ・SNSなども活用した若年層へデフリンピックの発信が大事。Instagramは動画や写真などの掲載に適している。

(太田委員)

- ・全国ろうあ者大会の場なども活用しながらスポーツに関わりのない方々もまきこんで何かできるようにしたい。

(早瀬委員)

- ・社会的・文化的プログラムについて、県や市レベルで開催する際の手配を支援してもらえるとありがたい。

(久松委員長)

- ・皆様からのご意見に感謝申し上げます。
- ・この運営委員会で皆様にご承認いただいたことを、大会準備連携会議にも報告し、そこでもご助言、ご支援をいただきたい。また、会議資料や議事録は後日、当連盟ホームページでも公開する。

以上